

セディアCSRアクティブレポート 2022

SEDIA  
SMILE  
BOOK  
Vol.16

お客さまとメーカーさまの  
笑顔が生まれる現場を  
レポートしました。  
ぜひ、ご覧ください。

多様性で、技術で、  
色々な人と共に取り組んで、

さあ、  
明るいい次代へ。

生活インフラの最前線には、  
明るい未来を信じて、元気に取り組んでいる人が  
たくさんいました。

# さあ、 明るい次代へ。 笑顔と共に行こう！

希望に表情があるとしたら、それはスマイルだと思うのです。  
明るさが広がる場所、その中心にも必ず笑顔があると思うのです。

ご覧ください。セディアグループのお客さまの現場には  
確かな仕事に打ち込む姿と、たくさんの笑顔がありました。

私たちは確信しました。生活インフラの未来は明るい。  
この笑顔がある限り、次代は明るい。  
そんな輝く現場をレポートいたします。


SEDIA  
SMILE  
BOOK  
Vol.16

私たちが快適で便利に  
暮らしている陰には、  
黙々と仕事に打ち込む  
誰かがいる。

昨日まであたりまえと思っていたことが、  
実はかけがえのないものだったと  
誰もが気づかされたこの数年。

私たちの快適で便利な暮らしも  
私たちの目にふれないところで、  
あるいは私たちが休んでいた、  
眠っていたりする間に行われている  
確かな仕事に支えられていることを  
忘れてはいけないと思う。

目立たないけれど、いつも必要とされる仕事。  
その積み重ねから明るい次代が生まれていく。



きれいに手入れされた  
手ではなく、  
明るい次代は働く手が  
作っている。

インターネットがどんなに発展しても、  
水が流れる道を拓くことも、  
作物を育てることもできない。

AIがどんなに進歩したって、  
木材に釘を打つことも、  
電柱から電柱へ電線を走らせることもできない。

働く手だけが物を作り、作物を育てていく。

傷だらけ、泥だらけかもしれないけれど、  
その手に感動を覚えるのは、  
絶えず努力する手こそが  
確かな未来を育てていけるから。

**粘り強く、コツコツと、  
確かな仕事を重ねる。  
建物ができあがっていく。  
未来がカタチになっていく。**

水の道を作ると、その周辺には街ができてきた。  
振り返ると、水道を通すことは、  
未来の暮らしを育むことだったとわかる。

住まいやビルを建てると、そこに暮らしや仕事生まれる。  
建物を作ることもまた、未来の暮らしを築くことかもしれない。

今日もまた、粘り強く、コツコツと  
確かな仕事を重ねる人がいる。  
雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も、  
手を抜かず、黙々と確かな仕事を重ねる人がいる。

彼ら彼女らが作っているのは、まぎれもない未来。  
明るい次代は、今日の、この現場から育まれていく。

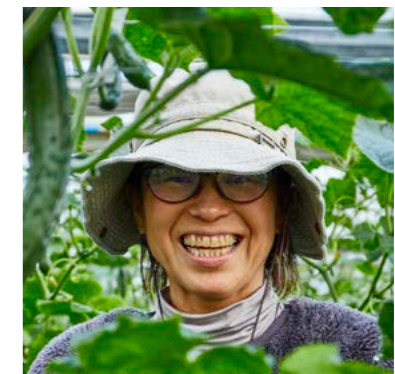
Chapter 1

# 多様性が拓く 未来へ。



人の可能性を掛け合わせていく企業がある。  
性別も国籍も年齢も、これまでの慣習や常識にとらわれていない。  
時流に乗って人を集めた訳でもない。  
人の可能性を信じる姿勢から多様な人が集まり、  
多様な働きが多彩な成果をあげていく。  
生活インフラの現場にも、  
そんなしなやかさを未来へのチカラにしている企業がある。

199 西日本装建工業株式会社	10
200 株式会社ナカス	12
201 ライフデザイン・カバヤ株式会社	14
202 そら農園	16



# コロナ禍後は、 海外進出へ。

日本で学んだベトナムの技術者が、  
現地企業の中核社員になる。

西日本装建工業株式会社 代表取締役の峯直宏さんのお話を伺うと、すべてはつながりなんだと感じた。「『アジア技術研究協同組合』という日本とベトナムを技術でつなぐ組織を立ち上げました。きっかけは職人不足の解消のためでした」。峯さんが組合会長になって入局管理などのさまざまな許認可を2年かけて取得。同時にベトナムに足繁く通い、信頼のできる幹旋企業とタイアップ。そして有能な技能実習生の受け入れ事業とベトナム人の現場監督実習生の派遣に乗り出した。「ベトナムで日本語の研修をみっちり受けさせます。技能実習生には基礎技術を習得させ、現場監督実習生には一級施工管理技士の資格取得のために、オンラインで講習を行う会社を立ち上げました。戦力にならない人材を送り込んでも意味はないですからね」。しかし峯さんの狙いは人手不足の解消だけではない。「コロナ禍が明ければベトナム支社を立ち上げます。日本で学んだ者も入社してくれることでしょ」と笑顔で言う。日本の企業には人手を、ベトナム人の研修生には技術の習得を、そして会社には海外進出の基盤を。まさに三方良しの取り組み。コロナ禍が明けるのが楽しみだ。



①②ベトナムからの技能実習生は、配管工事の基礎を現地で学んでから来日する。若い戦力として期待に十分応えている。③④⑥現場監督実習生もいる。現場で働きながら一級施工管理技士の資格取得もめざしている。⑤幹部社員は、技能実習生や現場監督実習生を見守りながらも自分の仕事を進める。

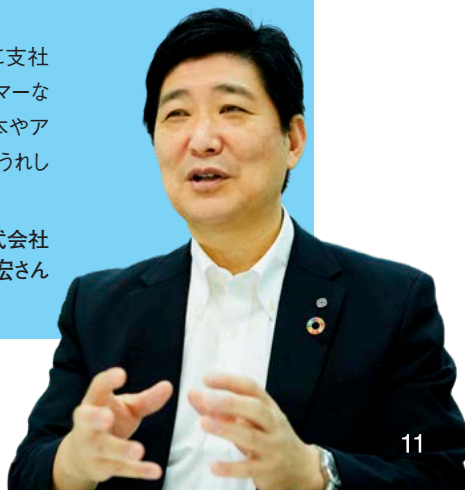
[大阪府大阪市]

## 西日本装建工業株式会社

■事業内容:設備工事、建設工事、電気設備設計施工、他  
<https://nishinihonsoken-k.com>

もともと海外進出に興味がありました。ベトナムに支社を出せば、そこを中心にしてインドネシアやミャンマーなど、インフラ整備が必要な国へ進出できます。日本やアジアの国々の建設事業の発展に貢献できればうれしいです。

西日本装建工業株式会社  
代表取締役 峯直宏さん



# 1999



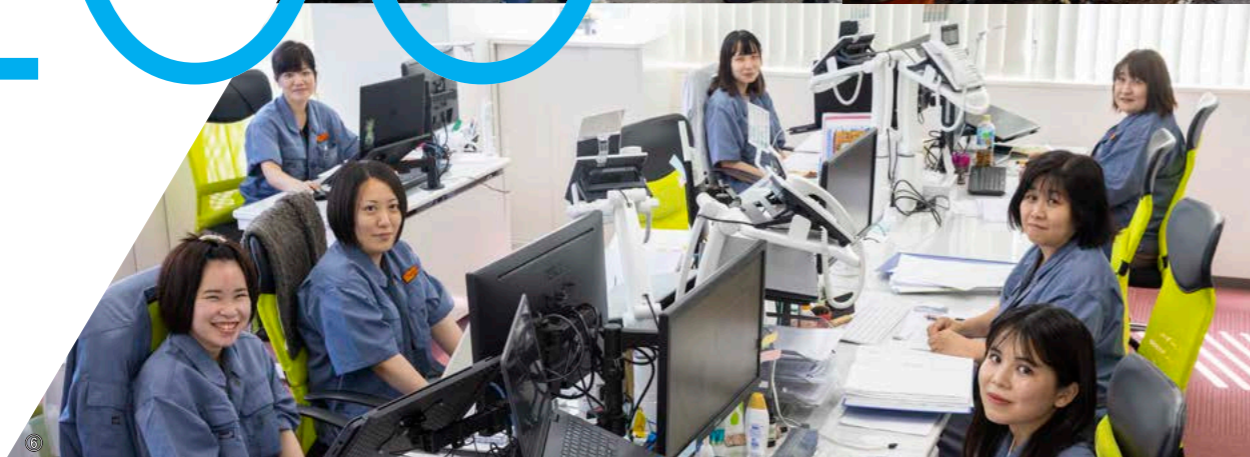
# 性別フリー! 国籍フリー!

めざすのは各自のできることを  
最大限に発揮できるチーム。

「私は台湾出身です」と笑顔で言うのは代表取締役社長の陳厚銘さん。東京の工業大学へ留学中、教授から先代の社長を紹介され、そのまま就職した。「外国人だから、女性だからという区別は昔からない社風でした。女性の採用も積極的でした」と陳さんは教えてくれる。ただし男女には得意なことの違いはあると言う。「現場の監督は男性の方がチカラを発揮しやすい。ただし工務業務は女性の方が向いています。得意な仕事は得意な人がすればいい。20年前から工務業務のスペシャリストを育もうと取り組んできました」と陳さんは言う。工務部をのぞくと女性たちが懸命に働いている。配管工事の日報など膨大な書類作成を行ったり、次の工事現場の配管状況を調べたりしている。現場へ向かうと男性社員が汗を流して工事をしている。昔は工事の前後にしていた業務を女性社員が行っている。なるほど、残業も削減でき、土日も休める訳だ。「性別も国籍も問いませんが、スペシャリストになってほしい。その集団から生まれるチームのチカラこそが、明るい次代の鍵ですね」と陳さんは言う。



# 2000



[東京都世田谷区]

## 株式会社ナカス

■事業内容:水道工事・下水道工事・道路舗装工事、他  
<http://www.nks-g.jp>

女性にもスペシャリストになってほしいから図面作成の研修なども受けてもらっています。お客さまへのお茶を出すのは女性の仕事と考えていません。そんな評判が広がっているのでしょうか、最近では現場で働きたいという女性が増えているんです。

株式会社ナカス  
代表取締役社長 陳 厚銘さん

①④⑤東京都世田谷区の住宅地の配管取り替え現場。スピーディーに掘削し、配管を取り替え、埋めていく。②女性社員も計測などの作業で確かな工事をバックアップ。③渡辺パイプの営業担当と商材の綿密な打ち合わせ。⑥会社の入り口付近にある工務部の執務室。女性社員が日報などの書類作成を行っている。







# ひとの人生も 地球の未来も デザインする。

多様性のあるつながりによって、  
未来がしあわせになっていく会社でありたい。

日本の住宅着工件数が減少する中で、ライフデザイン・カバヤ株式会社は岡山で戸建注文住宅着工棟数7年連続1位、中四国でも4年連続1位※だ。「当社は木にこだわった、多様なブランドを展開。大手ハウスメーカーの品質と安心を、ローコストで届けること、お客様の理想のライフデザインに応えたいという取り組みが評価されているのかもしれない」と取締役社長の窪田健太郎さんは言う。日本の大工就労人口減少問題への提言として社員大工制度がある。「高校卒業者を対象に自社で大工を育成する取り組みです。約3年間、教育担当の棟梁の元で修行を行い、その後、当社の現場を担当。社員による『直接施工・直接管理』は、住まいの質やお客さまの安心や満足につながると考えています」と窪田さんは笑顔で言う。また、未来へ向けた取り組みにも積極的だ。そのひとつがCLT(クロス・ラミネイテッド・ティンバー)。特殊な技術で積層させた木材を使った建築だ。窪田さんは言う。「その強度、その耐震性は木でビルが建つほど。しかも国内の森林の有効活用やCO<sub>2</sub>削減にも貢献します。持続可能な社会の未来をデザインできる素材と思い、その普及に力を注いでいます」。人の多様性だけでなく、事業もどんどん広げていく。その多彩な取り組みの先にあるライフデザイン・カバヤの未来は、きっと明るい。

※(株)住宅産業研究所調べ

## 201

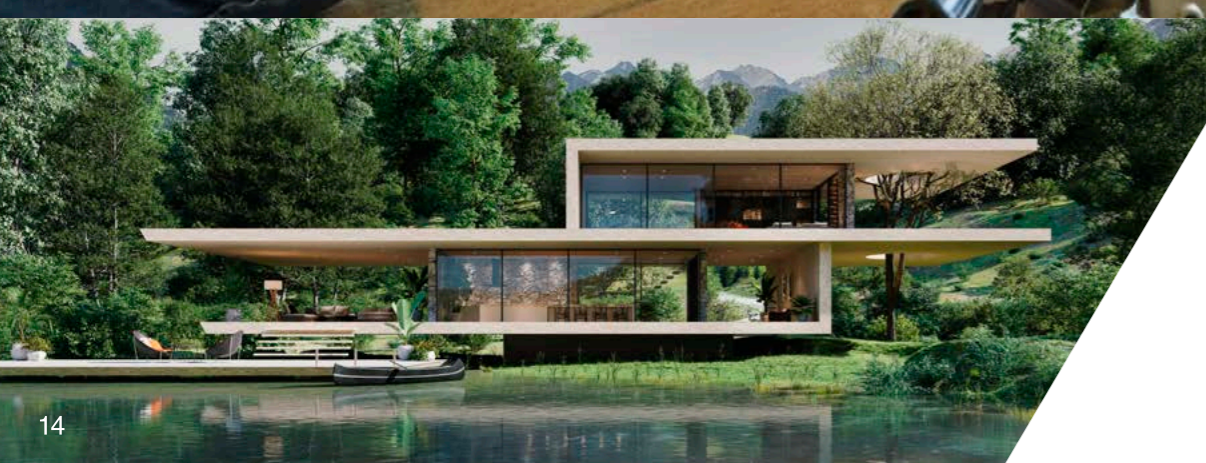
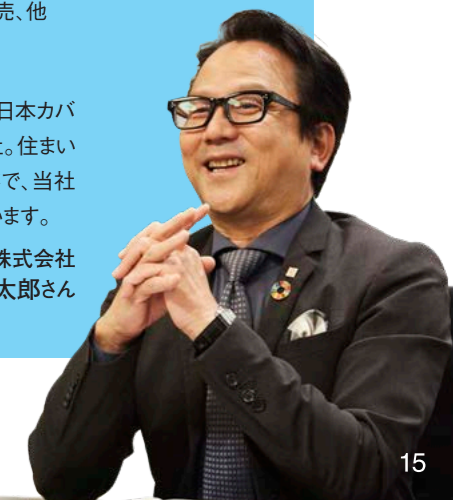
[岡山県岡山市]

### ライフデザイン・カバヤ株式会社

■事業内容:建築工事、建築物の設計、リフォーム、不動産販売、他  
<https://lifedesign-kabaya.co.jp>

学、食、住をもって企業経営をしていくことをポリシーに掲げる日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループの「住」を担うのが当社。住まいでお客様の人生をデザインする。それは社員に対しても同じで、当社で働くことでしあわせな人生をデザインできる企業をめざしています。

ライフデザイン・カバヤ株式会社  
取締役社長 窪田 健太郎さん



①②社員大工のひとり、佐々木さんは入社4年目。現場を終えるごとに技術力があがる手応えを感じる毎日と言う。③④武田さんも社員大工のひとり。入社7年目。沖縄の大きな現場の担当を終えて、岡山に戻ってきたところ。

現場では後輩の指導も務めている。⑤CLT住宅の外観イメージ。CLTは2021年に東京で開催された国際的競技大会の選手村にも採用された。ライフデザイン・カバヤではCLTを広めるために、社内団体日本CLT技術研究所を通じてCLT事業のFC加盟を募集している。

# 栽培作物を 多様に、多彩に!

大変だけど面白い。  
何よりリスクを分散できるので安心だ。

夏はオクラ。秋から春にかけてはにんにく。冬はきゅうり。一年を通してネギを栽培。そら農園の尾崎潤生さん・麻美さんご夫婦は多品種の栽培に取り組んでいる。「ひとつの作物だけを作って、自然災害や不作に襲われたらお先は真っ暗です。色々栽培するのは大変だけど、年間の収益が見えると共にリスクの回避にもなるので安心です」と潤生さんは言う。ご主人はサラリーマンから農業の道へ入った。多品目栽培をしたいと言うと近隣の農家から猛反対を受けたという。「しかし農業で生きていくと決めたからには生産性の向上も大切なんです」と奥さまの麻美さんは言う。限りある農地で可能な限り効率的に栽培していく。そのための見える化も怠らない。渡辺パイプのモニタリング・環境制御装置も率先して取り入れた。「勘や経験に頼った農業に別れを告げて、やる気があれば誰でもできる仕事にしたい」と潤生さんは抱負を語る。今年は黒にんにくの加工販売にも挑戦するという。経験を重ねて利益の高い作物へ切り替えていく。計画と生産性を見据えた農業。ここからも明るい次代は生まれてきそうだ。



# 2022



## [高知県南国市] そら農園

■栽培作物:ネギ、オクラ、にんにく、きゅうり、他

農業を始めて約13年。最初は600坪だった作付面積は約1万坪までになりました。今年は当農園が栽培したにんにくを収穫し熟成発酵させて黒にんにくへ加工し、7月から販売予定です。

そら農園 尾崎潤生さん・麻美さん

①④年間を通して色々な作物を栽培しているけれど、ネギは一年を通して栽培。これからは単価の高い九条ネギにも挑戦したいと考えている。②儲かる農業をめざすには生産性の向上は欠かせない。勘ではなく数値で管理するために、グリーンハウス内にはモニタリング・環境制御装置が稼働している。③奥さまの麻美さんも収穫のお手伝い。元気で明るい、笑顔の素敵な人だ。⑤脱サラして農業の道へ飛び込んだ潤生さん。後悔はしていない。それより農業にはまだまだ可能性があると感じている。



# Chapter 2

# ブレない技術こそ 明日への宝。

203 株式会社林建設	20
204 日生電機株式会社	22
205 中田水道工業株式会社	24
206 弘栄設備工業株式会社	26
207 株式会社コロナ	28



AI、DX、デジタルソリューション、  
ビジネスには新しいスタイルが  
どんどん生まれてくる。  
変わるもの、変わらないものがあるとしたら  
変えてはいけないものもあるはずだ。  
技術の研鑽もそのひとつ。  
頑なに、愚直に、技術を磨いて、  
今日も生活インフラを支える人々がいる。



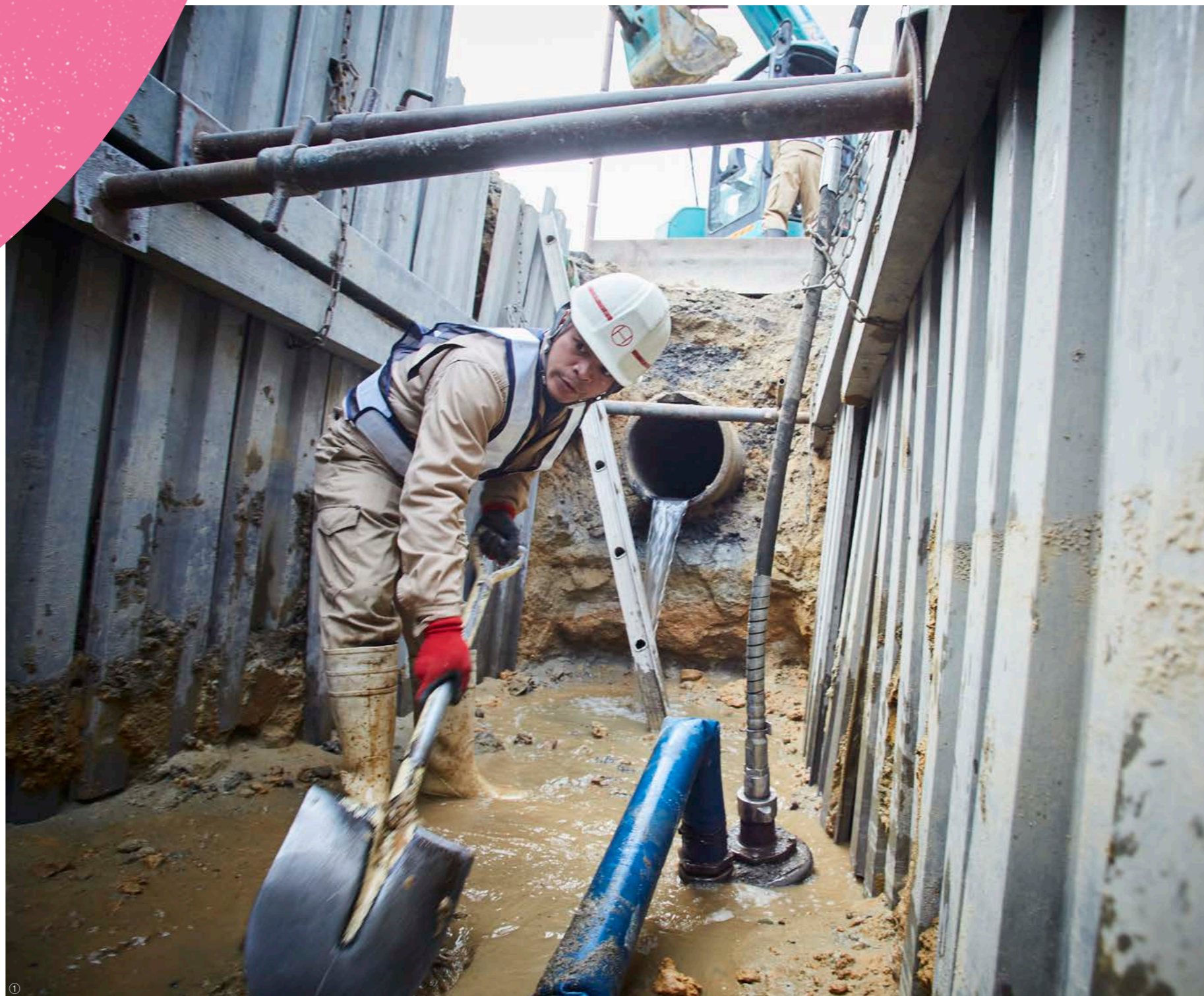
# 無事故こそ、 技術力の証。

現場災害無事故10年以上。  
「速く、安全に」という使命に技で応える。

「チームワークと声かけです。それとにかにワクワクする仕事ができるか。それが当社の確かな仕事の根本です」と笑顔で教えてくれるのは、株式会社林建設 代表取締役の林潤さん。土木の現場は危険が伴う。取材先は下水配管の取り替え工事。商店街のど真ん中で、止水をせず、街に降った雨などの雨水と家庭の下水が合流する管を取り替える。悪条件が重なる中で誤差20mm以下の工事をスピーディーに行う。「基本は若い社員に担当させますが、常にベテランが声をかけ、肝心なところはベテランが担う。現場災害無事故が続いているのは、チームワークのおかげ。最近は海外からの技能実習生も増えてきましたが、成長は早いです」と林さんは言

う。深さ2.3m、幅1.5mの中での作業。確かに厳しい現場だと思う。一瞬の気の緩みが重大事故を引き起こす。しかしあたりまえのように手際よく、70cmの管を数ミリの狂いもなく布設していく。「現場にいると大阪市のインフラを守っていると実感します。ワクワクしますよね」と現場の監督も兼ねている工事部部長の橋本さんが笑顔で言う。生活インフラはこのような工事の積み重ねが支えていると改めて思った。

# 2023

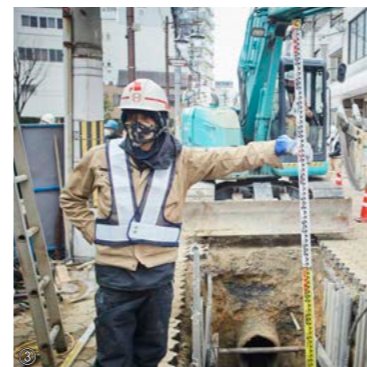


## [大阪府大阪市] 株式会社林建設

■事業内容:土木工事

安全に工事をする事は、社会への約束だと思っています。がんばって働く社員にとっても事故はあってはいけません。技術というのは、まず安全が第一で、その上で確かさを求めていくことだと思います。その積み重ねが技術力になるのではないのでしょうか。

株式会社林建設 代表取締役 林 潤さん



①既設管に残った下水が流れ込んでくると排水ポンプで下水を取り除いていく。②働く喜びに溢れた笑顔を浮かべるベトナムからの技能実習生。日本の冬の寒さだけが苦手だと笑う。③条例で決められた誤差は3cmまで。しかし林建設の社員の確かな技術は、2cmの誤差も発生させない。④寒風の中、下水まみれ、泥まみれで仕事を進めていく。生活インフラを守る仕事は過酷だけれど、暮らしの役に立つ仕事というやり甲斐に溢れた仕事でもある。

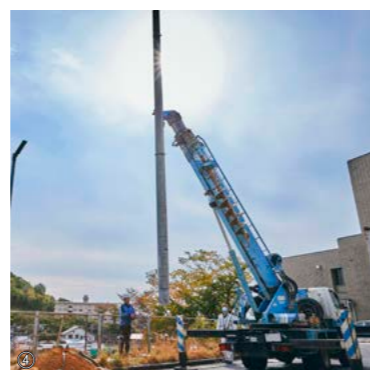
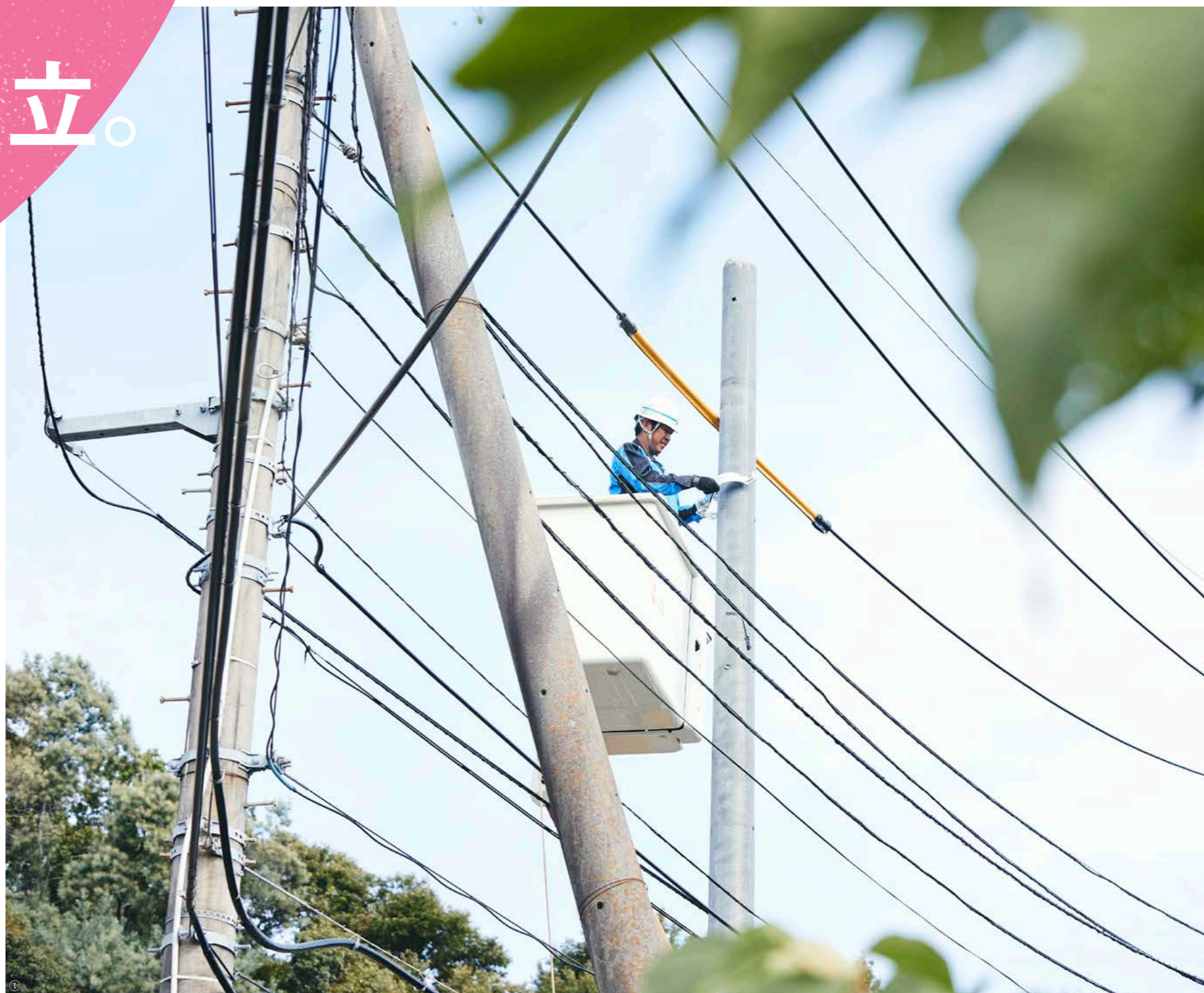
# 速さと確かさの両立。 それが仕事だ。

声をかけ合い、気を配って、最後は見守る。

日生電機株式会社は山口県を代表する電気設備会社。代表取締役の古谷伸一さんは山口県電業協会の会長を3期歴任し、現在は相談役として活躍中だ。「1965年の創業から私で3代目。社員を我が子のように育てる社風があって、チーム力こそ我が社のチカラ。だから、チームワークが必要となる大型の施設や公共工事が主な仕事になっています」と古谷さんは言う。取材日は山口県立総合医療センターの高圧ケーブルの更新工事だった。古谷さんも作業着を着て現場へ駆けつけていた。「電気を止めることは周辺に大きな迷惑をかけます。医療の現場なら患者さんの命にも関わります。だからスピードと確かさが肝心で、その両立ができてこそ、当社の仕事と思っています」。現場ではテキ

パキと仕事が進んでいく。誰もが自身の役割を把握していて、最短の工程で仕上げていく。声をかけ合い、細かいところに気を配り、手と体を動かす。古谷さんを見てみると、箒で掃除をしながら社員の働きを見守っている。時折笑顔が溢れ、うなずいたりする。「育てることは信じることから。見守ることも大切です」と言う古谷さん。その横顔は試合中の野球選手を見守る監督のようだった。

# 2024



①高圧ケーブルの更新工事。まずは新しい電柱を建て、ケーブルをつなぐ準備にとりかかる。②現場監督の社員。時に厳しく、時に優しく、職人たちの仕事を見守る。③クレーンの操縦者と阿吽の呼吸で電柱を埋設していく。④新しく電柱を新設する。掘削した穴にクレーンで電柱をはめていく。



## [山口県防府市] 日生電機株式会社

■事業内容:電気工事、設備工事、他

電気はますます重要なライフラインになっています。新設はもちろん、保守作業や更新工事は安全な暮らしを支える重要な仕事。だからこそ技術を磨くことは怠らないようにしたい。その姿勢に古い新しいはないと思います。

日生電機株式会社 代表取締役 古谷 伸一さん

# 人柄が技に出る。

営業はしない。この仕事が次の現場を呼ぶ。  
そして淡路島で半世紀。

社員の誰もが明るい。それが何ヵ所かの現場取材した第一印象だった。「地域やお客さまや先輩方が私たちを育ててくれているんです。その喜びを社員で共有できているからでしょう」と中田水道工業株式会社 代表取締役の中田進市さんは笑う。人口13万人あまりの小さな島にも何十社もの水道設備工事店がある。中田さんは言う。「その中でやっぱり中田水道工業に、とってもらうには信頼を積み重ねていくことと感謝の心、が大切だと思っています」。確かな仕事をするにはあたりまえ。淡路島で公道漏水など緊急事態が発生したときは、率先して社員を派遣する。そんな対応もまた中田さんは地域への感謝と言う。それは人との関係にも言え

# 205

[兵庫県洲本市]

## 中田水道工業株式会社

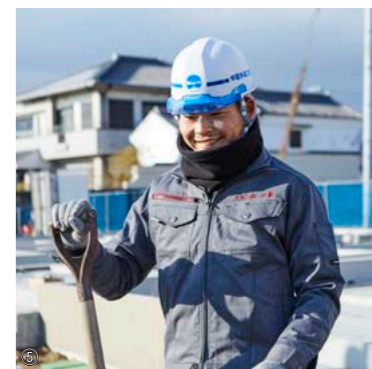
■事業内容:給排水衛生設備工事、空調設備工事、  
上下水道工事、他  
<http://www.nakata-suido.co.jp>

お互いの意思疎通がうまくとれると仕事がしやすく、効率よく丁寧な作業ができる。若い人の育つスピードも速くなる。そうすると工事が円滑に回り出します。それが確かな仕事につながっていくんだと思います。これからも確かな仕事を積み重ねながら、この淡路島で必要とされる会社でありたいですね。

中田水道工業株式会社 代表取締役 中田 進市さん



る。「技術を磨くことはもちろんですが、その前に人です。職人であっても施主さまや建設業者さま、関連業者さまとの関係性の中で仕事をしなければなりません。ひとりでは何もできません。それに気づくと心を開くようになる。声をかけるようになる。コミュニケーションが円滑になる。いい仕事になる。人柄は仕事に現れます」と中田さんは笑顔で言った。寒さの厳しい現場でも明るい社員たちの働き振りを見て、なるほどと大きくなすくのだった。



①連携こそ中田水道工業の持ち味。声をかけ合い、テキパキと仕事を進める。②現場には想定外の出来事はよく起こる。埋設されていた配管の位置が図面とは違った。しかし慌てない。ベテランの経験と技術で素早く対応していく。③設備工事の仕事も多い。淡路島へ移住してくる企業の新オフィスの設備工事を行う。④若い人ができることはなるべく若い人に任せる。経験豊富な上司が見守る限り、現場がいちばんの学校なのだ。⑤人柄の良さが笑顔に表れる。いい仕事を重ねていると思う。

# ロボットが作ったのは 仲間だった。

仕事をさせるだけでない。ロボットの開発が  
未来と仲間とのつながりを生み出している。



「あるようで実はなかったんです」と弘栄設備工業株式会社の代表取締役社長であり、株式会社弘栄ドリームワークスの代表取締役会長も務める船橋吾一さんは配管内探査ロボット「配管くん」の開発についてそう語る。配管図が残っていない建物は多い。図面作成後に変更になることもある。正確な図面があれば簡単に済む工事が、ないことで大がかりになってしまう。だから配管内にロボットを自走させて、高性能カメラで老朽箇所を見える化し、走行経路をマッピングすることで配管の配置を把握できるようにしたいと船橋さんは考えた。「設備会社が何をやるのだと社内からは白い目で見られました」と船橋さんは笑う。しかし想いが人を呼び、大学との共同研究が始まり、船橋さんのプランは実

現していく。ロボットの開発は思わぬ収穫をもたらしたと船橋さんは言う。「全国にはより良い工事やもっと事業の幅を広げたいという志の高い経営者がいます。ロボットがきっかけでそんな人たちとどんどんつながっています。ロボットを独り占めするのではなく、パートナーとなる方たちと共有していっしょに成長していきたい。明るい次代は、みんなであわせになる時代であってほしいから」。取材で同席していた誰もが船橋さんの言葉に賛同した。

# 2006



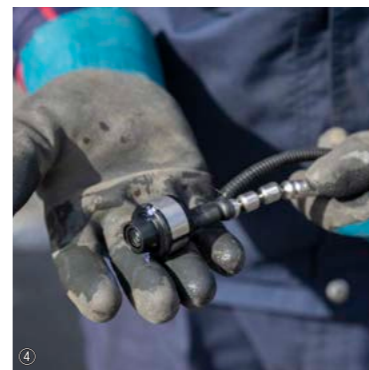
[山形県山形市]

## 弘栄設備工業株式会社

■事業内容:空気調和設備工事、給排水衛生設備工事、  
上下水道設備工事、他  
<http://koeisetsubi.jp>

着想から10年。メディアにも取り上げていただけるようになりました。しかし本番はこれから。「配管くん」に次いで、骨伝導技術に応用した漏水診断システム「音とりくん」なども開発。どんどん改善改良していきます。

弘栄設備工業株式会社 代表取締役社長  
株式会社弘栄ドリームワークス 代表取締役会長 船橋 吾一さん



①④今回の取材現場は配管内探査ロボット「配管くん」II型が稼働。カメラと高圧洗浄ホースが一体となっていて、配管内を洗浄しながら、高輝度LEDライトを搭載した170°カメラが管内を撮影。パソコンのモニターに映し出される。②どんなに狭い場所でも「配管くん」を挿入できればパソコンで管内の状況を確認できる。③パートナー企業へのデモンストレーションも兼ねていた。工事の前にテストを行い、作業の内容を確認する。

# 一通の手紙が つないだもの。

風評被害を心配したけれど杞憂だった。  
一通の手紙が社員とのつながりを強め、  
今日もきっちり造り込んでいる。

全社員に届けられた  
社長からの手紙

石油ファンヒーターやエコキュートなどの住宅設備を製造する株式会社コロナ。企業は人と言うけれど、株式会社コロナほど社員や地域を大切にしている企業はない。「工場はすべて発祥の地、新潟にあります。社員も地元の人を採用。我が社はメイド・イン・新潟の企業です」と笑顔で教えてくれるのは長岡工場工場長の今泉和則さん。株式会社コロナには社員を大切に思う素敵な手紙があった。新型コロナウイルスに見舞われた昨年、社長が一通のメッセージ、「コロナではたらくかぞくをもつ、キミへ」を地元の新聞に掲載した。従業員には手紙として届けられた。今泉さんは言う。「風評被害に困っている子どもへ向けたメッセージは、すべての社員の心に響きま

した。社員がさらにひとつになりました」。生産性や効率を考えると拠点を移すとか海外の人を招くという手もあるけれど、株式会社コロナは決してその方向へは進まない。「物造りは人が造るものです。機械化やAIは人のためにあるのであって、人がそれらに管理されてはなりません。寄り合って、話し合っ、人が元気に働く工場があってもいいと思うのです」と今泉さんは笑顔で言う。人が笑顔で、誇りをもって働く。それも明るい次代の働き方に他ならない。

# 2027

【新潟県三条市】

## 株式会社コロナ

■事業内容:暖房機器、空調・家電機器、  
住宅設備機器の製造・販売  
<https://www.corona.co.jp>

長岡工場は新潟にある工場のひとつで、主にエコキュートの製造を行っています。人は機械ではありません。声をかけ合っ、助け合っ、寄り合っ物造っていく。物造りは人づくりという考えを当社は頑なに守っています。

株式会社コロナ 長岡工場工場長 今泉 和則さん



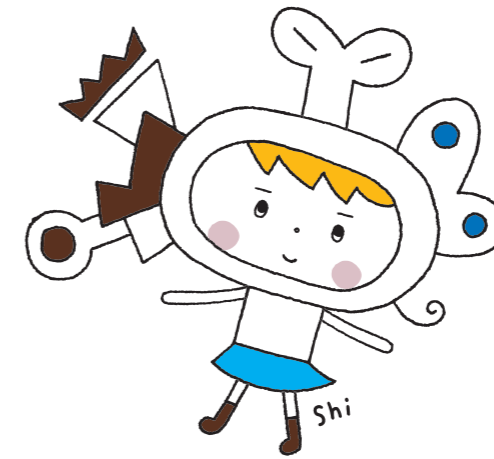
①⑤女性が元気に働いている。男女にはそれぞれ得意な分野があるので、それぞれに向けた仕事を担当するようにしている。②③コロナにはまだまだ人の技が製品に息づいている。人が造る人のための製品。その誇りを胸に社員は今日も造り込んでいく。④新潟にあるコロナの工場の中で、長岡工場は主にエコキュートの製造を担っている。



# Chapter 3

# 共に取り組む 姿勢で 次の頂へ。

208 株式会社拓匠開発	32
209 内村建設株式会社	34
210 株式会社フルーツオンザヒル	36
211 大建工業株式会社	38

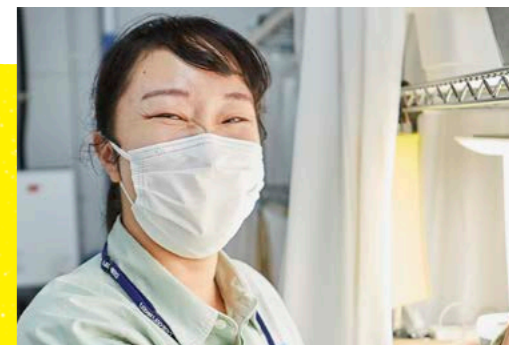


水と水を混ぜて何かを生み出そうというのは  
これまでのビジネス。

水と油を混ぜることですまったく新しいダイナミズムを  
生み出そうとするのがこれからのスタイル。

いろんな人や企業との取り組みには  
そんな掛け算の効果がある。

時代やスタイルをパッと変えてしまう取り組みや  
チームのチカラで生活インフラの未来を明るくする  
企業がある。





本能に、感動を  
やっちやん!  
とことん!

人と同じことをするなら満足で終わる。違うことに挑むから感動が生まれる。

既成概念に縛られていると面白いものではないと代表取締役の工藤英之さんは言う。「住宅を建てようとして土地を購入したところ、立派な檜といちょうの木がありました。この木は街の財産、切るわけにはいかないといい企画を変更。人が集えるツリーハウスとカフェにしたのです」。収益や採算を考えると驚きの決断だが、「トップたる私が突拍子のないことに挑み、その上で収益へつなげなければ社員は動きません」と言う。ツリーハウスのあるカフェは街の財産に成長。面白い企業としてメディアからの取材が殺到した。「挑戦する企業でありたいと考えたとき、具体的にどういうことをするか社員と真剣に考えました。答えは「ちがいを、ちからに」です。人と同じことをしては満足で終わる。違うことに挑むから感動が生まれる。少々の失敗はいいんです。ただしすぐにあきらめの言葉を発したら叱ります。ダメだと思ったところからの「とことん力」がすべての感動の源です。少々の失敗にめげないそんなチカラをもつ若い人とどんどん出会っていきたく」と工藤さんは子どものような笑顔で語った。



# 208

①正解はない。しかし答えはあるというのが拓匠開発の考え。だからその答えへ向かって職人とことん向き合っていく。②施主や企業の想いをカタチにしていくのは、いつの時代も職人の確かな技だ。③中央の木をかこむように、あえて平屋の住まいをデザイン。空が広がる住宅街は「平屋の街をつくる。」でグッドデザイン賞に輝いた。④檜といちょうの木は街の財産と判断した工藤社長は、宅地の造成をツリーハウスのあるカフェに変更した。⑤木にこだわった住まいを職人と共に作っていく。休憩の時間は談笑に花が咲く。これも大切なコミュニケーション。笑顔のない現場に良い建物は生まれない。

## 【千葉県千葉市】 株式会社拓匠開発

■事業内容:宅地開発・新築戸建分譲、注文住宅・リノベーション、他  
<https://takusho.co.jp>

地域の財産となることなら何をしたいと思っています。型破りなアイデアほどうれしくなるし、未来のデザインにつながります。できるできない、成功失敗は二の次。ただとことんやってほしいです。

株式会社拓匠開発 代表取締役 工藤 英之さん



# 2009

声を聞く。支えて、支えられる。  
地域も企業も明るい次代は  
共に挑むことから。

「繁華街の真ん中にある保育園の運営に関わっています」と代表取締役社長の内村明高さんは笑顔で言った。建設会社が保育園を?その理由を聞いて納得した。「子どもが笑顔で歩く街はいい街だと思っています。もうひとつは元気な社会の先に我々の建設の仕事が生まれるからです」。地域貢献は自社だけではできないことも多い。「保育園は志を同じにする地元の企業といっしょに取り組んでいます。私の会社でも社員といっしょになって仕事を進めていきたい」と内村さんは言う。「言うことを聞けと押しつけるやり方は私には合いません。まず社員の声を聞く。叶えることができるかできないかはそれから。こうしろではなく、こうしようという気持ち、それが大切です」。「うちじょ会」と名付けて女性社員の意見を聞くプロジェクトを立ち上げたのは5年前。鹿児島市が推進するイクボス<sup>※</sup>制度に初年度から参加して、上司が部下のワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援している。「しんどいときにはしんどいと言えることこそが家庭であり、職場であり、地元であってほしいんです。明るい未来ってそんなところから生まれるのではないのでしょうか」と内村さんは笑顔で言う。その志と取り組みに拍手を送りたい。

※イクボスとは部下のキャリアやワーク・ライフ・バランスを応援しながら、組織としての成果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむ上司(管理職や経営者、女性も含まず)をいいます。



①細心の注意を払いながらも職人が力を発揮する。②④働きやすい職場環境を大切にしている内村建設。上から下への指示よりも、お互いがこうしようとアイデアを出し合い、最善の方法を選択していく。③⑤確かな仕事ができる社員を育てるために、社員には色々な現場で、一通りの仕事を体験させる。人材こそ企業のチカラという考えが内村建設には根付いているからだ。

【鹿児島県鹿児島市】

## 内村建設株式会社

■事業内容:一般建築、新築住宅の建設、リフォーム、他  
<https://www.uchimura-arc.jp>

SDGsも真剣に取り組まなければなりません。地産地消に関して建設業界では遅れているところがあります。地元で木を育て、地元の木で住まいを作る。そんな循環をつくるため地域の人や企業と取り組んでいきたいですね。

内村建設株式会社 代表取締役社長 内村 明高さん



# こうしろではなく こうしよう で行く!

夫、妻、息子が家では家族、  
農園ではチームとして喜びを実らせていく。

始まりは齋藤勝彦さんの想いだった。「60歳までおもちゃ屋をしていました。ふと農業がしたくなったのです。それで即行動。ブルーベリー農園を始めました」と齋藤さんは言う。しかしその後の展開には目を見張るものがある。摘み取り体験を始める。ぶどう栽培を始める。3年後にはカフェを併設。果物をアイスパーやジャムやサンドウィッチへ加工して販売する。そして2021年にはいちご農園を開設した。「お客さまをもっと喜ばせたいという想いだけでした」と齋藤さんは振り返る。面白いのは、カフェや食品加工の担当は奥さまの京子さん。昨年開設したいちご農園の担当は息子の大悟さん。齋藤さんはブルーベリーやぶどうの栽培に専念している。「それぞれの役割があるので妻のカフェ、息子のいちご農園に口だしはしません。よく分担できましたねと聞かれます。お客さまの笑顔を広げる喜びを目の当たりにするとみんなその気になるんです。喜びで、家族や地域の人をどんどん巻き込んでいる感じです」と齋藤さんは笑顔で言う。60歳の転職から10年。齋藤さんはまだ未来の喜びを見つめている。

その喜びが  
人を巻き込んで  
いく。



# 210

①父、勝彦さんの後を追うように、農業の世界へ飛び込んだ大悟さん。いきなりいちご農園を任せられた。②渡辺パイプの営業担当は時に良い相談相手になると大悟さんは言う。③これからどんどん実っていくいちご。④時には勝彦さんもいちご農園の手伝いにやってくる。⑤勝彦さんの持ち場はブルーベリーの農園だ。春からシーズンとなるブルーベリー摘み取り体験のために冬の時期から手入れを重ねていく。⑥いちごのハウスは渡辺パイプのグリーンハウスだ。



【群馬県高崎市】

## 株式会社フルーツオンザヒル

■栽培作物:ブルーベリー、ぶどう、いちご、他  
<http://www.fruitonthehill.co.jp>

9名のパートさんにも働いていただいています。ありがたいのはみんながチームの一員とってくれていること。喜ぶお客さまを目の当たりにするとみんなその気になって積極的に働いてくれる。指示待ちの人なんて誰もいません。

株式会社フルーツオンザヒル 代表取締役 齋藤 勝彦さん



# 扉を開くと、 未来が拓ける。

閉ざす理由はない。  
研究所の扉を開くと  
さまざまな可能性が動き出す。

「研究所は自社だけのもの。そんな時代は終わりました」と笑顔で言うのは大建工業株式会社岡山工場内にある「R&Dセンター」所長の伊藤圭さん。大建工業は住宅用建材の大手メーカーで、「R&Dセンター」は新規事業開拓などを促進する目的で2018年に開設された。「キーワードはオープンイノベーション。我々は素材や製品の機能・製造工程・工法などをオープンにする。色々な人が来てアイデアが芽生える。出会いから次代への取り組みが生まれる。そんな明るい循環をめざしています」と伊藤さんは言う。まわりを見渡すといたるところで打ち合わせをしている。「大学生、地域やメーカーの方、研究機関、サプライヤー、お客さまなどさまざまな方が来られます。色々な人、意見、想い、そんな多様性の中から明るい次代を照らす光は生まれるのではないのでしょうか」と伊藤さんは言う。研究所といえば扉を固く閉ざし、内容は非公開というイメージがあるが、ここにはそんな雰囲気はない。開かれて、明るくて、元気をを感じる場所。研究所のこれからのカタチなのかもしれない。その進展に期待したい。

# 211

① 建材メーカーのイメージとはほど遠い白衣姿の研究者。未来の新素材の開発は絶え間ない研究から生まれる。② 研究所の所員はもちろん、営業担当や異業種の人、さらには大学関係者など、色々な人との対話から新しい可能性の芽は育まれる。③④ 思う存分実験できる恵まれた環境で、新たな技術の開発に挑む研究者の方々。⑤ 今まで色々な場所・拠点に点在していた実験設備や機器をR&Dセンターに集約。新たな設備も導入し、研究開発の強化・効率化をはかると共に、新たなアイデアを生み出す交流の場としても期待されている。⑥ 木材のチップを使った新素材は農業分野でも注目を集めている。

## [大阪府大阪市] 大建工業株式会社

■事業内容: 素材、建材の研究・製造・販売、他  
<https://www.daiken.jp>

建物の素材から機能素材へ。そして住宅から他の領域で活躍できる素材の研究開発へ。そのひとつに、国産の木材チップを原料に、独自の加工技術を施した園芸資材用の木質培地があります。渡辺パイプさんにもお試しいただいています。

大建工業株式会社 執行役員  
開発本部長 兼 R&Dセンター所長 伊藤 圭さん



# 夢もビジョンも、叶えるため あると信じて取り組む。

夢やビジョンを描くことは大切です。しかしもっと大切なことは実現への行動。  
セディアグループは社内で推進している「セディア2030宣言」の一環として、  
サステナブルな未来や社会のために、「水から始まるセディア環境ビジョン」を描きました。  
生活インフラに貢献するセディアグループの事業は、暮らしや社会、自然の環境、  
そして未来にも直結しているからです。  
描くだけでは終わらない。一つひとつ取り組んでいく。  
そんな未来の明るい芽が、  
セディアグループの中で育ち始めています。



セディアグループは  
ずっと前から、  
環境活動に取り組む  
企業です。



みらいをクリーンに、ハッピーにすることを願ったセディアグループのシンボルキャラクター「みらくりん」(右)と「はっぴょん」(左)。このたびセディアグループの環境ビジョンの推進キャラクターになりました。

セディアシステムが誕生した1994年。「元気で快適な生環境を提案する」というコーポレートスローガンを掲げました。商品を販売するだけでなく、水と住まいと農業の事業を通じて、誰もが笑顔でいつまでも快適に暮らせる環境づくりに貢献する企業をめざしたのです。そして2010年に「みらくりん」と「はっぴょん」が登場。セディアグループがめざす、クリーンな未来とあわせから生まれる笑顔をビジュアル化したキャラクターは、営業車や配送車のボディにも描かれ、大きな反響をいただきました。思えばセディアグループは、ずっと環境活動に取り組む企業でした。だからこそこれからも、持続可能な環境づくりのためにさまざまな取り組みを加速させていきます。

私たちの  
SEDIA  
2030  
宣言

生活インフラを  
つなぐ「パイプ役」に。

# 水から始まるセディア環境ビジョン

社員のために、お客さまのために、  
社会のために、そして未来のために。

# セディア グループのCSR

## 私たちの SEDIA 2030 宣言

生活インフラを  
つなぐ「パイプ役」に。

SEDIA2030宣言を實踐中!

セディアグループは、次世代を担う若手社員が中心になって  
未来のあるべき姿を描くビジョンを策定。

それが「SEDIA2030宣言」です。

社員のため、お客さまのため、社会のためにセディアグループができること。  
社員一人ひとりが未来を見据えて取り組んでいます。

どんなときも  
ライフラインを  
つなぐ。



大災害が起きたときに迅速な復旧工事に取りかか  
ることができるよう、全国管工事協同組合連合会と  
「災害時における復旧活動の応援協力を係わる覚  
書」を締結。ライフライン復旧のための資材供給を  
円滑に行うことを目的とした協力体制を整えていま  
す。また、水道メーカーさま6社と緊急時の資材供給  
体制を整えています。それが「ライフライン・ネット」。  
大災害が発生すると渡辺パイプからメーカーへ復旧  
資材の確保と配送を連絡。全国管工事協同組合  
連合会と協力しながら、資材を現場へ配送する体制  
を敷いています。

ZEBリーディング  
オーナーに登録  
されています。

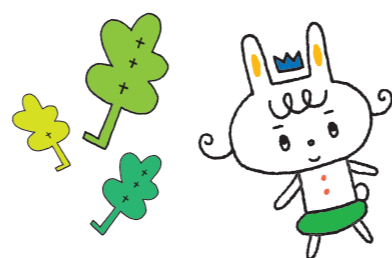


「ZEB」とは、「Net Zero Energy Building(ネット・ゼ  
ロ・エネルギー・ビル)」の略称で、快適な室内環境を  
実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー  
の収支をゼロにすることをめざした建物です。そんな  
サービスセンターが岐阜SCを皮切りに、延岡SC、函  
館SC、市川北SC、福井SCで竣工。脱炭素社会を  
実現すべく、高气密高断熱や制御センサーなどによ  
り徹底的な省エネを実現し、残りのエネルギーをク  
リーンエネルギーによって補うことで、地球にも人にも  
優しい職場環境づくりをめざしていきます。

環境に優しい  
EV営業車が  
活躍していきます。



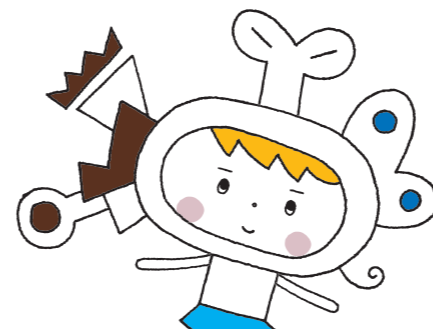
2022年2月、実証実験としてボディにオリジナル  
のラッピングを施した電気自動車(EV)を営業車とし  
て導入しました。CO<sub>2</sub>排出削減を目的とし、カーボン  
ニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、今後も  
セディアグループができることを考え実行してまいり  
ます。



スポーツの感動や  
楽しさを通して、  
地域を元気に。



スポーツ振興を通じ、地域の皆さまが健康で豊かな  
生活を送ることができるように、女子サッカーなでこ  
1部リーグのオルカ鴨川IFC(千葉県鴨川市)、男子  
プロバスケットボールの信州ブレイブウォリアーズ(長  
野県長野市及び千曲市)などスポーツチームを応援  
しています。



アスリート社員と共に、  
チーム力を強化して  
地域交流を。



渡辺パイプ陸上部に所属する川崎和也選手(十種  
競技)、竹内爽香選手(短距離)、中山昂平選手  
(三段跳)、北川翔選手(短距離)。セディアグル  
ープの一体感の醸成とコミュニケーションの活性化に  
も貢献しています。また、地域の皆さまとふれあう機  
会をもち、スポーツの楽しさを知っていただくため、小  
学生や中学生を対象とした陸上教室の講師として  
も活動しています。今後もスポーツ振興と地域交流  
を目的とした社会貢献活動を行ってまいります。

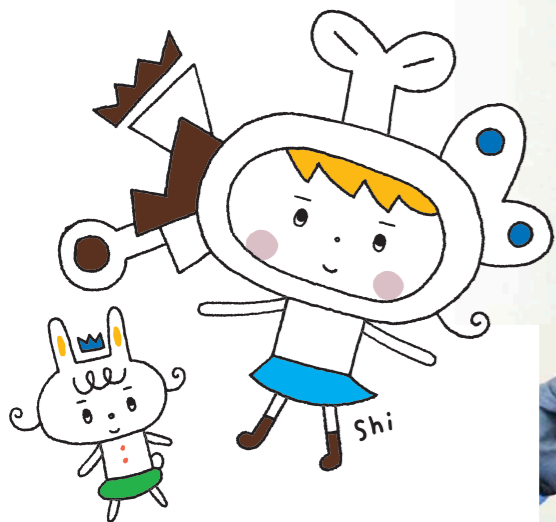
豊かな自然を守り、  
自然からの学びを  
明るい未来に活かす。



セディアグループの「NPO法人浅間山麓国際自然  
学校」では、手付かずの自然が残されている浅間山  
麓の豊かな自然を守り、次世代へつなげるため、絶  
滅危惧種の動植物の保護パトロールや周辺の生  
態調査を実施。また、地域住民・関係団体・行政と  
連携しながら、自然環境を守るための各種事業を  
行っています。加えて、自然環境を最大限に活用し  
た自然体験プログラムや訪れた皆さまに浅間山麓  
の魅力を伝えるプログラムを提供しています。



# 笑顔のある所から 明るい次代は 育まれる。



未来への取り組み、  
まだまだ続きます。



社名 渡辺パイプ株式会社  
本社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10  
浜離宮パークサイドプレイス6階  
創業 1953年12月8日  
代表者 代表取締役社長 渡辺 圭祐  
資本金 100億9,918万4,000円  
年商 3,400億円(グループ売上:2022年3月期見込)  
従業員数 5,328名(グループ全体:2022年4月1日見込)

業務内容 【管工機材の販売】  
配管材、バルブ類、ポンプ、衛生器具、給排水金具、他  
【住宅設備機器の販売】  
住設機器、空調機器、厨房機器、給湯機器、建材、他  
【電設資材の販売】  
電気工事材料、電線、照明器具、配電機器、他  
【温室の設計・施工、販売】  
各種温室の設計・施工、各種ビニールハウス及び部品・資材、  
各種被覆資材、灌水装置、自動カーテン装置、天窗・側窓開閉装置、  
冷暖房装置、温室環境制御装置、養液栽培システム、他

グループ会社

渡辺パイプ沖縄株式会社	協伸株式会社
株式会社ツギテの三共	西日本グリーン販売株式会社
ヤナギ管材株式会社	みかど化工株式会社
株式会社鶴岡屋	株式会社げんき農場
中村機械工具株式会社	Watanabe Pipe Vietnam Co.,Ltd.(WPVN)
千成産業株式会社	げんきビジネスサポート株式会社
株式会社大成商会	株式会社セディアビーエス
大野バルブ産業株式会社	株式会社アサマリゾート
平和テクノ株式会社	NPO法人浅間山麓国際自然学校
台湾渡邊建材股份有限公司	公益財団法人セディア財団
株式会社WATER WORKS	
株式会社ワークサポート	
株式会社プロスパー	
パイプシステム工業株式会社	
株式会社セディアトランスポート	
株式会社セディアC&P	
株式会社エドビ	



## 水から未来を考える。自然の学びを未来へ活かす。 セディア財団はスマイルプロジェクトを応援しています。

### セディア財団 全国小学生かべ新聞コンテスト

「わたしたちのくらしと水」をテーマに、全国の小学生を対象にした、かべ新聞コンテストを開催しています。毎年たくさんのご応募をいただいております。第7回のコンテストでは、全国から5,784作品(応募校数:208校)が集まりました。



### 高校生が描く明日の農業コンテスト

全国の農業高校に通う生徒を対象に「わたしはこんな方法で農業を元気にする」というテーマでレポートを募集するコンテスト。第5回は547作品(応募校数:30校)ものご応募をいただき、セディア財団賞受賞者には副賞として奨学金が進呈されました。



私たちは、暮らしに寄り添う企業として、お客さまやお取引先さま、地域の方々の笑顔を想い、さまざまな商品やサービス、ソリューションをお届けしています。「水」「住まい」「農業」の明日を描く、すべては皆さまの暮らしと笑顔のために。

これまででも、そしてこれからも。  
セディアグループは持続可能な未来への取り組みを進めます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



水・住まい・農業の明日へ。

## 渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地 5-6-10  
浜離宮パークサイドプレイス 6階  
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374  
<https://www.sedia-system.co.jp>

人と、地域と、社会と、自然との共生を第一に、しあわせを明日へつなぐ取り組みを、セディアグループの水と住まいと農業の事業領域を中心に行っています。